

令和4年7月12日

鈴木委員

数点お聞かせください。今のかながわP a yの話聞いていて、私は素朴な疑問が3つほどあるんだ。1つは、100万ダウンロードと言うけれども、実際に使われているのはどれくらいなの。

中小企業支援課長

アプリをダウンロードしたのは100万4,000件ですけども、実際に使う段階では、アプリに登録しなきゃいけないんです。その登録をしたのは、実際は80万程度というふうになっていると思います。

鈴木委員

いや、私が聞いているのは、実際にその登録じゃなくて、使ったのはどれくらいだと聞いているの。そんなの分かるよ、別に。ダウンロードして、当然それを登録しなきゃならないけれども、使ったのは何人ぐらいいるんだと聞いているの。

中小企業支援課長

実際にダウンロードして、登録をして、さらに1円以上使った方ということになりますと、60万人程度ということになります。

鈴木委員

それは何によって分かるの。今、あなたは60万人と言ったけれども、どういうデータからそれが出てきたの。

中小企業支援課長

事業者から第1弾の総括的なデータをもらっていますので、そこから導き出しております。

鈴木委員

今、私は素朴な疑問として、よくあなた方がマイME-BYOカルテだって二百数十万とか言って、実際に使ったのは分からないと言うのと同じで、実際に使ったのはそのぐらいあるというのだったら私もよかったと思う。ただ、先ほどからあなた方の答弁の中でもって、神奈川県民の方に使っていただくという話があったけど、これは別にアプリだから、東京の人等々だったって、ダウンロードしたって別に構わないわけだよね。そういう規制はどのようになっているの。例えば、東京都民の人がかながわP a yを使おうと入れて、それに対して東京だったら駄目なんですよという方はリジェクトされるの。

中小企業支援課長

アプリの中で、住所地を聞いておりますけれども、そこで神奈川県に縛るということはしておりません。

鈴木委員

それじゃ、あなたのさっき言っている答弁とはえらい違うじゃないか。神奈川県民の方にしっかりと使っていただくという中でもって、どれぐらい県外の人がそれを使っているの。

中小企業支援課長

アプリに登録した80万人の方のデータですけども、神奈川県外の方が

1. 64%いるところでございます。

鈴木委員

課長さん自体、実際にダウンロードして、アプリを使いましたか。

中小企業支援課長

使っております。

鈴木委員

さっきから、私はあなたの答弁を聞いていると気にかかるんだ。二次元コードの話ですけど、もしこれが、あなたがさっきおっしゃっていた二百幾つぐらいあるタクシーの場合には、どんなふうにして払うのかね。二次元コードはタクシーの中のどこに置いてあるのかね。

中小企業支援課長

加盟店に対して登録いただいた方には、三角ポップというものを送っております、それはレジの周りに置いていただいております。それはコピーしても使えますので、店によってはコピーしたものをいろいろなところに貼ったりとかという対応をしております。タクシーについても、例えば、三角ポップを置いてある車もありますし、運転手さんが出してくるということもあろうかというふうに思っております。

鈴木委員

2つ検討しておいたほうがいいですよ。

1つ目は何なのかというと、今、あなたが言った、紙で作ったのかボール紙で作ったのか分からないけれども、あの二次元コードの貼ってあるそのものを、置いていないお店というのはいっぱいありますよ。かながわP a yにしたいんですけどもと言ったら、どうぞと言って二次元コードを出してくる。私なんか単純な疑問として思ったのは、タクシーなんかは今いろんなものがある。タクシーGOだってあったり、いろいろある中で、この二次元コードというのはどのような形でもって出していくのか。いちいち乗ったタクシーで聞くわけにいかないじゃない。あなたが実際に使ってみたように、私も使わせていただいて、何件か回ってみました。基本的にはどこかのテナント等々でもって、それも大型商業施設なんていうのは、そのフロア全部がかながわP a yでもって、旗を立ててやっているよ。ところが個別の店というのはいろんなアプリがあって、そんなところにいちいちあなた方が作ったようなものを置いていない。だから、聞かない限りは分からない。だから、もちろんダウンロードした方の中でもって、かながわP a yはやっていますかと言ってくれる方はいいけれども、そうじゃない方はそれを使わないまま、ほかのアプリでもって決済、P a y P a yで私はやると思っています。

2つ目は、先ほどあなたが20代は15.1%で低いとおっしゃったけれども、私はP a y P a yを使っているからだと思いますよ。先ほどあなたが、現金をいっぱい持ち歩いているからだとおっしゃっていたけれども、私が少なくともいろんな若者と話している中では、おさい銭以外はコインを触ったことがないと言うんだから。変な話だけど、コロナ禍でもって触りたくないと言うんだよ。そういうところから、私はすごくこのかながわP a yというものの在り方という中に、なぜ15.1%なのかということ、しっかりとあなたもつかんでおいた

ほうがいいと思います。

P a yについては以上。

次に、第11次神奈川県職業能力開発計画というものをちょっと拝見させていただいた。素朴な疑問なんだけど、これを今読んでみたら、11次のところに労働力の需給動向というようなものを書いてある。その動向が、全然話が何か違うので、ちょっと最初に聞いてみたいと思っている。まず、11次のほうの2ページ(6)の中に、総人口は令和2年頃にピークを迎えると書いてあるんだけど、こちらが10次のほうだと全然違う。要するにピーク時が違っているのよ。これは何で違うのかね。だって、神奈川県としてある程度きちっとした形にしないと、これはデータとして活用できないんじゃない。

産業人材課長

10次計画の県の人口推計でございますが、これは平成28年に10次計画を立てる際、このときに最新の県の人口推計というものを引用させていただいております。また、今回のこの2ページでございます人口推計につきましては、資料の25ページのところに出ておりますとおり、令和元年7月にグランドデザインに出ております県の人口推計、その資料を用いさせていただいたところでございます。

鈴木委員

しかし、私は、今あなたがそういう県の人口が云々かんぬんという参考資料を言われたけれど、年数でこれだけの違いであるならば、数年の間にもってこんなにデータが違うのであるならば、例えば、一つ一つ施策を打ち出すときに、大きな誤りが出るんじゃないかと私も心配しているわけ。もちろん推計なんだからそれは分からないけれども、その11次までの四、五年の間にこれだけの大きな違いが出てくるというのは、これはいかがなものかということ、一つ私は指摘しておきます。その中で、10次を見させていただくと、いろんな施策がいっぱい書いてあるよ。例えば、10次の4ページのところに、実施目標とか実際にそれが施策の基本となるべき事項とかって全部書いてある。これに対しての総括ってここに1つも書いていないけどなぜ。10次であなた方がやったことに対して、どのようになったのかという、ある意味ではEBPMってどこにも書いていないけどどうして。

産業人材課長

委員のおっしゃるとおり、この11次計画のところにつきましては、10次計画の結果について記載しておりません。私どもは、毎年10次計画の毎年度の実施結果を審議会のほうに報告させていただきまして、その結果を県のホームページのほうに載せているところがございます。確かに11次計画のほうには載せておりませんので、もしそのほうが分かりやすいということであれば、次の案のところ掲載していければと。

鈴木委員

私はそういう意味じゃなくて、あなた方がこういう議会に出してくる資料であるならば、きちっと起承転結しなきゃおかしいだろうと言っているの。あなた方はこういうふうに出してきて、きっと10次計画なんて見ていない人から見れば、ああ、そうかとなるかもしれないけど、見てみるとこの中でできていな

いのは結構あるよ。これはどういうことなんだろうということを、きちっと書き直してくださいな。11次のところにはここがこういう形でもって、10次の前の年度でやった目標はどのようになったのかというのが一つ大事だ。

2つ目には、この施策を出すために、少なくともここから先のあなた方が出している数年間、要は早い話が令和4年から令和7年の世の中は、また産業はどのようになるとにらんで書いたのか。どのような世の中になると書いていたんですか。

産業人材課長

今後4年間の期間でございますが、これから急速に社会のデジタル化、IT技術の進展が進むものと思われております。そういった中で、県の産業を支えるそういったIT人材、専門的な人材の育成、そういったことが現時点では必要だというふうに考えています。

鈴木委員

いや、そうじゃなくて、課長がそう思ったなら、それがこのどこに書いてあるんだ。それとこれが結びついた文章じゃないじゃない。今後の取組の視点の中でもって、あなたが言っているのは足りているのかもしれないけど、今後どのような世の中になるかというものなしでこんなものは書けないじゃない。そうじゃないの。違うかね。

産業人材課長

委員のおっしゃるとおり、この3ページのところに書いてあるだけですので、今、頂いた意見、頂いた内容につきまして、もう一度課内で検討して記載する方向で考えていきたいと思っております。

鈴木委員

それともう1つ、この3ページの下から3つ目の丸、この中に、キャリアコンサルティングやリカレント教育を推進しますと書いてあるじゃない。だけど、時代はやっぱりリスクリングの時代ですよ。これ、今、アメリカ等々ではリスクリングテックと言っている。ここ、先日の日経新聞でもって、自動車の部品のボッシュのリスクリングが始まっているけれども、今までの日本のような、入ってから退職まで長いという時代がどんどん変わって行って、リスクリングというような時代もこの中に私は入れておいたほうがいいと思っておりますけどいかがですか。

産業人材課長

私どもは今のところ、リカレント教育ということでやっておりますけれども、リスクリングについても検討しまして、審議会の委員の先生なんかの意見も踏まえまして、必要があれば入れていければというふうに考えております。

鈴木委員

素案ですし、やっぱり大幅な改革等々というのをやることも大事だと思いますから、ひとつよろしくお願ひしたいと思うんですね。

あわせて、さがみロボット産業特区について、最後に1つ聞かせてくださいな。課長さんがさっきからいろいろ答弁されているけれども、このさがみ産業ロボット特区の第2期計画、

SECOND STAGE OF ROBOT TOWN SAGAMIとい

うのを見ていて、見える化ということがここに書いてあるんだよ。そもそも、このロボットと共生する社会というものの見える化というのは、どういうふうにするのかね。

産業振興課長

一般の県民の方に、ロボットが実際に社会に溶け込んで活躍している姿を見ていただく、ロボットの有効さに気づいていただく、これを見える化と考えております。

鈴木委員

だからそうじゃない。それだったとしたら、今、県民はみんな大概知らないよ。ロボットなんて。申し訳ないけど。私もこの前、本会議の一般質問の最後でもって、いっそのこと神奈川県をショールーム化したらどうかと言ったのはロボットについてだよ。今、素朴な疑問として聞きたいのは、さがみロボット産業特区のホームページの中に、ここがさがみロボット産業特区ですと書いてあるじゃないですか。例えば、全国トップレベルのロボット関連産業の集積とか、キラリと光るオンリーワン技術を持つ中小企業、そして、あと実証実験に適した公的機関・施設などと書いてあるけど、これは具体的にどのように見える化したいんですか。

産業振興課長

例えば、ロボット実証実験につきましては、私ども相模原市内、高校の非活用区を活用しまして、ロボットのプレ実証フィールド、こちらを開場しております。そうやって見える化をして、また、年に1回は地域の事務の方をお招きしまして、施設の紹介もさせていただいております。

鈴木委員

あなたに提案しておきますけれども、いっそのことさがみロボット産業特区のグランドデザインをつくったら。目指すものをつくらずに、そういうちゃちなことをいつまでもいつまでもやっているから、10年たっただって何も変わらないんだよ。私があなた方に介護ロボットを提唱したのは10年前だよ。何も変わっていないじゃない。この中を見てみると、どこかでもって見たようなロボットがごろごろ書いてある。挙げ句の果てには、申し訳ないですけども、実装実験もあなた方にちゃんと提案したって、それから全然進んでいないだろう。実際、湘南鎌倉総合病院でもってやってももらった後だって、進んでいないじゃない。あなた方がさがみロボット産業特区なんて2階のところに旗まで振っているんなら、いっそのこと、どういうようなものにするのかというグランドデザインをつくりなさいよ。

産業振興課長

委員のおっしゃるとおり、なかなか進んでいかないというのは事実でございます。昨年、委員に御視察いただきました湘南鎌倉総合病院につきましては、実装の後、実際にロボットを導入ということで、例えば、案内ロボットであるとか、入退院の案内ロボット、また清掃ロボット等も導入が決まっております。また、グランドデザインというような御提言を頂いたんですけれども、さがみロボット産業特区のグランドデザインというのは、まさしく国に提出する計画、特区の認定結果だと考えております。こちらにつきましては、委員の皆様方と

意見交換しながらしっかり固めて、来年提出したいと考えております。

鈴木委員

いや、私はそういう意味で言っているんじゃないんだよ。例えば、さがみロボット産業特区は10市2町と言っていたよね。ここのホームページに、さがみロボット産業特区なんかどこも出てこないよ。例えば、あなたが先ほど言っていたアイリスオーヤマのパワーアシストスーツ、これと部品の何かがこの10市2町の中で使われているのか。そういうことなんだよ、課長さんよ。答弁することは、私は短い期間の中でもって、ここだけであなたとやって、これでもって終わっちゃうんだよ。そのスーツなり何なり、ここにいろいろ総括してあって、生活支援ロボットの商品化の状況とか書いてあって、実はこれしかKPIってグランドデザインには何も書いていないから、申し訳ないけれどもあなた方も何をしているか全然分からない。私が見ていて思ったのは、商品化とかであるならば、実際の商品化の中に、この10市2町の方がみんなその利益を被るというような構造を、あなた方がつくらないで、このところに5台や10台なんてちゃちなものをいっぱい書いてあったところで、どうにもならないじゃない。私は腹立たしいんだもの。私は10年間もずっと見ていて、申し訳ないけれどもロボットについては一緒にやってきたつもりでいる。だけどあなたが先ほどグランドデザインは国に出したものだからと言うが、その次元じゃないと思うよ。逆に局長、どう思う。グランドデザインをしっかりとつくったらどうだ。これだけの大胆なものをやったんだったら。今まで10年かかってやったんなら、見える化するって書いてあるんだし。

産業労働局長

今、鈴木委員とのやり取りをるる確認させていただきました。ありがとうございました。確かにロボット産業は、今、それほど劇的には進んでいないというのは事実です。そういう意味では、先般、鈴木委員のほうから御提案いただいたショールームとかというふうに、やっぱりロボットが使われている実感、見える化、見える化と言いながらも、見える化というのは本当にロボットが使われているんだという実感も受けていただくことが大切。それは市町村しかりだと思っております。そういう意味で、グランドデザインという形なのかどうかも含めて検討させていただければというふうに考えております。

鈴木委員

以上、終わります。